

壊す前に施したいリスク回避と寿命延長の特効薬

予防整備でRを護る



HKSが放つ独創的排気量UPメニュー

RB30コンプリートエンジンの衝撃

日産NISMOワークスドライバーが最新アイテムを斬る!

松田次生 × BRIDE / edirb

平手晃平 × ADVAN NEOVA AD09

松田次生が『BRIDE／edirb』の最新モデルを試す！
Rに求められるシートの資質

クルマとドライバーの一体感を生み出すためには自分に合ったシートを選ぶことが必須。
長年にわたり「メイド・イン・ジャパン」に拘ってきた「ブリッド」の最新モデルを松田次生が試乗！

文：野田航也（本誌） 写真：澤田優樹
取材協力：ブリッド ☎052-689-2611 <https://bride-jp.com/>

BRIDE®





愛車のR33 (右) にブリッドのシートを装着している松田次生選手。上級版とも言えるエディルプの新作4タイプの座り心地をインプレ。同社の新世代モデル初体験ということだが果たしてその評価は!?

GT-Rに相応しい上質な「edirb」の最新作

性能は当然、質感にも拘る
発売間近の4タイプを試す

40年以上にわたり、メイド・イン・ジャパンのオリジナルスポーツシートを開発・販売し続けているシートメーカー「BRIDE (ブリッド)」。本誌163号では同社の歴史やシート作りの拘りを取り上げたが、今回は今年5月に発売を控えている同社の最新モデルに触れたい。

通常モデルの「ブリッド」に対し、輸入車や高級スポーツカーをターゲットとしている「edirb (エディルプ)」シリーズ。そこにフルパケットの「0A1」「0B1」、セミパケットの「161」「162」「171」「172」が新たなラインアップとして加わる。それぞれベースとなるのは「ブリッド」の最新モデルで、フルパケットの0A1はZETTA (ジータ) IV、0B1はZIEG (ジーク) IV、リクライニング式の161/162はGIAS (ガイアス) III、171/172はSTRADA DIA (ストラディア) IIIの構造と骨格を受け継いでいる。

それぞれのシートの特徴は次ページに譲るが、新作エディルプの最大



従来ヘッドレスト部にあった「edirb」の刺繍ロゴをあえて小さく控え目にした新作。ロゴカラーはレッドとグレーの2色



腿から腰にかけてのサイドサポート内側にキルティング加工を施す。質感の向上だけでなくホールド性向上にも効くという



ブリッドの高瀬嶺生代表 (右) いわく、「松田選手のコメント力はドライバーの中でも群を抜いています」と評価能力を絶賛

の特徴は表皮やデザインなど、従来モデルを大きく上回る高級感が与えられた点である。ドライバーを覆うサイドサポート上部には「ウィーガレンザー」を、座面/背面には「ウルトラスエード」を採用。さらに、それ以外の部位は「プロテインレザー」とするなどブリッド・モデルよりも見た目の質感を向上させている。特筆すべきは今回初採用された「ウィーガレンザー」。この人工皮革は摩擦強度に優れるのが特徴で、乗り降りの際に身体が擦れることによる摩擦を従来モデルよりも大幅に抑制しているという。プロテインレザーは自動車メーカーも採用している実績のある天然有機物の端材(シルクや卵殻膜、プロテイン)を高度な技術でパウダー化、独自の複合化技術で製造された上質な人工皮革。新作のエディルプでは腰から腿をサポートする部分にキルティング加工を施すことで包まれ感のあるホールド性を実現している。



常に進化を続けるブリッドの製品。ちなみに、edirb (エディルプ) はBRIDEを逆さの表記とした同社の上級ブランド名だ

レーム剛性や強度の向上はもとより、座部/腿部の両クッションに高い耐久性を誇る発泡モールドウレタンを採用したことで、ヘタリにくいシートに生まれ変わっている。

発売前のエディルプ4脚の座り心地を試すのは目録ニスモワークスドライバリーの松田次生選手。フォーミュラ・ニッポン(現スーパーフォーミュラ)とスーパードライバリーGT500クラスでそれぞれ2回ずつシリーズチャンピオンに輝いた経験を持つ現役トップドライバリーとして、そしてイチGT-Rオーナーとしての目線でそれぞれの印象を語ってもらった!

ホールド性は文句なしでR35にもマッチ!



「座った瞬間、ホールド性の高さに驚かされました。フルバケとしてのスポーツ性の高さは当然ですが、座面の高さやクッション性など、高級感があって街乗りなどでのコンフォート性能もよさそうです。シート全体の剛性も非常に高く相当な力を加えてもビクともしませんね。サーキット走行では横Gだけではなく前後Gも掛かりますので、身体に無駄な力を入れる必要がない高剛性シートじゃないと運転に集中できません。肩まわりのフィット感も気に入りました」



バックレスト部が程よくストレート形状となるフルバケットタイプの「0A1」。標準的な形状で着座姿勢に癖がないため多くのユーザーにフィットする。シェル素材はスーパーアラミド製で高剛性を確保している。R35の内装にも部分的にedirbシートと同様のプロテインレザーが使用されているためマッチングも◎

edirb0A1

21万6,700円



街乗り7:サーキット:3という使い方ならコレ



「リクライニング式のセミバケとしては、全体的にかなり身体をホールドしてくれます。見た目も上質ですし、座り心地にも高級感があります。僕が使っている世代のブリッドシートはダイヤル式のリクライニング機構ですが、新しい世代はレバー式になっていて操作がしやすくなっています。さらに、シートバックのガタがほとんどないため、サーキット走行なども十分にこなせるシートだと思います。腿に当たる部分もキルティングで適度にソフトなところもマルです」



ホールド性とリクライニング機構を両立する161(スタンダードクッション)/162(ロークッション)。ベースはBRIDE GIASⅢで、サイドおよびショルダーサポートは深めの設定となっている。骨格となるボーンフレームとモノコックシェルは前モデル(Ⅱ)に対し耐荷重強度は200%、ねじれ強度は40%向上している

edirb161/162

32万4,500円



edirb0B1

23万1,000円



レーシーなポジションが取れるフルバケ!



「0A1に対してシートバックが寝ていて、フォーミュラカーのようなポジションになります。目線も下がるため、低いポジションが好きな人に合うと思います。腰から背中あたりの角度が斜めに立ち上がっているため背骨に対する密着感もあります。腿や肩のサポートは0A1とほぼ同等ですが、お尻が深く入っている感じなのでホールド性能がより高いと感じます。シートバックが立ち気味が好きな方0A1、少し寝た姿勢が好きな方はこの0B1が最適だと思います」

ストレート形状の0A1に対してラウンド(猫背)形状のバックレストを持つ0B1。低いアイポイントが好みの方に最適なフルバケだ。なお、標準シートレールのほか、最大でさらに40mmポジションを低くできるスーパーローポジション用も設定。全モデルともにロゴとステッチはレッド/グレーのいずれかを選択できる



edirb171/172

31万3,500円



ホールド感が高いのに乗降性にも優れる



「自分のR33でストラディアⅡを愛用していることもあり、その後継モデルのⅢをベースにしている171/172は進化がわかりやすいです。シートバックの角度調整のしやすさや剛性の高さは161/162と同様で、サイドサポートが少し浅めになっていることでバケットシートとしてはとても乗り降りがしやすいです。ホールド性もしっかりあるので、ドライビングシートとしても十分通用しますし、助手席に装着すれば同乗者もきっと満足してくれると思います」

161/162同様に骨格に高剛性のフレームとモノコックシェルを採用し、バックラッシュを微量に抑えたリクライニング機構を持つセミバケットシート。171(スタンダードクッション)/172(ロークッション)と2タイプを設定。161/162と比較してサイドサポート形状を浅くすることで乗降性を高めている

